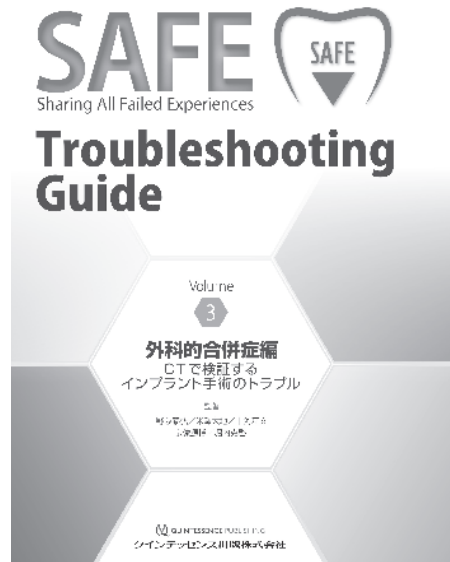


トラブルシューティングガイド第3巻 ～ ご紹介 ～



第4章～6章では、歯槽部骨造成術、サイナスリフトおよびソケットリフトなどの骨造成術に関するトラブルについて記載されています。

骨造成術に対する生体の反応は様々で、同じ術式で同じ骨補填材を使用しても、思わぬトラブルが生じる場合があります。したがって、成功例から学べることは少ないと考えられ、トラブル症例の存在を知ることが生体の反応を理解する第一歩と思われます。さらに、骨造成術はインプラント治療を行うための手術であるため、骨造成術におけるトラブルシューティングの目標は「如何にインプラント治療を達成させるか」と思われます。

一方、骨造成術でトラブルが起こった場合、患者には肉体的および精神的なダメージが生じるため、患者が再手術を希望しないことも少なくありません。したがって、すべての症例でリカバリーが行われているわけではありませんが、可能な限り原因とリカバリー法を検証し、客観的に骨造成術のトラブルについて考察しました。

本書によって、骨造成術における注意点が整理され、予知性の高い骨造成術を検証するための一助となれば幸いです。



野坂 泰弘

野阪口腔外科クリニック



宗像 源博

神奈川県立歯科大学附属病院
口腔インプラントセンター